

長岡空襲から75年 平和への願いを 次の世代へ

昭和20年8月1日の長岡空襲。長岡市は市街地の約8割が焼け野原となり、1,488人（同年7月20日の模擬原子爆弾による殉難者4人を含む）の尊い命が奪われました。

今年は戦後75年。市は、平和への願いを次の世代へつなげるため、犠牲者の遺影や体験画の展示などの企画展を開催しています。そして、空襲を体験した世代が少なくなる中、初めてその体験を語る人がいます。殉難者遺族の櫻井美津さんの体験談や平和への想いを、長岡戦災資料館が所蔵する空襲体験画とともにお伝えします。

問庶務課 ☎39・2203



◀千手小学校に続く道に立つ櫻井さん。空襲から逃げる時と、父の実家に向かう時に通った道です。「当時はもう少し道が狭かったと思う。朝になっても地面がとても熱かったです」と話しました

8月 平和を祈る行事

問庶務課 ☎39・2203

【1日(土)】

※①～③、⑤の行事は関係者のみで行います

① 戦災殉難者慰霊祭

時 午前6時から 場 平潟神社社殿（表町1）

② 戦災殉難者墓前法要

時 午前7時から 場 昌福寺（四郎丸4）

③ 空襲で亡くなった子どもたち・教職員と市民を追悼する集い～2020平和祈願祭～

時 午前8時～8時30分 場 平和の森公園（本町3）

④ 長岡市平和祈念式典

時 午前9時～9時40分 場 アオーレ長岡
※マスクの着用、入場時の検温、手洗い・手指消毒をお願いします。参加者が多数の場合、入場を制限することがあります

⑤ 柿川灯籠流し [10ページへ](#)

⑥ 慰霊の花火の打上げと梵鐘の打ち鳴らし

花火…午後10時30分、梵鐘…午後10時30分

【1日(土)～3日(月)】

● 鎮魂たむけの花・長岡空襲殉難者遺影展示

時 午前10時～午後4時 場 アオーレ長岡

【10日(祝)まで】

● 長岡空襲75年企画事業

「長岡空襲体験画特別展」（追加開催）

場 まちなかキャンパス長岡

【30日(日)まで】

● 長岡空襲殉難者遺影展・戦災住宅焼失地図展

時 午前10時～午後4時 場 長岡戦災資料館

母と弟はずっと寝たきりです。苦しんでいる母を見るのはつらかったです。私は母の足元に行ってはころころ転がって、泣いてばかりいました。弟は母



▲斎藤洋子さん画「親かな綿靴」。裸足で歩いていたところ、親切な人が布団の綿で足を包んでくれました

また残りの道を歩きました。

腕も髪も焼けた母の姿。怖くて直視することができなかつた

8月1日の夜——空襲が始まり、家の裏にあるお寺がひどく燃えたため、急いで逃げる準備をしました。弟をおんぶする母に祖母が付き添い、私と姉と祖父は一足先に逃げました。消防署に勤めていた父は家にいませんでした。学校近くの雪が※を指しましたが、外は一面火の海。どの道も通れないのです。なんとか逃げ道を探して学校のグラウンドにたどり着き、母たちと再会することができました。しかしその時の母は、服の袖が燃えてなくなり、腕にひどいやけどを負っていました。髪の毛も焼けてチリチリの状態で

す。痛々しい母の姿を、怖くてちゃんと見ることができませんでした。熱く焼けた地面の上を靴下で歩いた

朝になると、村松町の父の実家から伯父が来てくれました。母が動けそうになかったため、伯父がリヤカーを持ってもう一度来ることになりました。そして母と弟を世話するために祖父は残り、祖母と姉と私は一足先に父の実家へ歩いて向かいました。

出発する時、祖母に「良いと言わないで、これを目に当てていなさい」と畳



さくらい みつ 櫻井 美津さん (84歳)

当時は千手国民学校（現・千手小学校）3年生で、祖父母と両親、姉、弟の7人家族。長岡空襲で母（43歳）と弟（4歳）の2人を亡くしました。



▲佐藤剛正さん画「黒豚げの遺体」。空襲後、道路にはたくさんの焼死体が見られました

んだタオルを渡されました。祖母に手を引かれながら、なぜこうしなきゃいけないのかと思い、タオルを少し上げてみたくです。すると、足元にたくさん遺体が横たわっていました。慌ててまた目を隠して、そこを通り過ぎました。

のそばに寝かせてあげました。後から聞いた話では、弟のお腹は膨れて真っ黒になっていたそうです。逃げていた間にガスを吸ってしまったのでしょう。母は8月4日に、弟は7日に亡くなりました。慣れないことばかりで体を壊したのか、12月に祖父も胃がんで亡くなりました。お医者さんも出征して、なかなか連絡が取れないんです。苦しむのを見ていることしかできませんでした。

一人で悲しむ子どもがいない世の中に

これまで、人前で戦争のことは語らずにいました。しかし戦争から75年が経ち、語り部の方が少なくなる中で私の経験が少しでも役に立てば、という気持ちを抱くようになりました。そんな時に声を掛けていただき、こうして話ができるのはありがたいことです。今思うのは、もう二度と戦争はしてほしくないということ。私は母を早くに亡くしましたが、姉や親戚のおかげで一人になることなく育ちました。だからこそ、一人で悲しい想いをする子どもがいなくなることを願います。大人も子どもも、争い事がなく、仲良く暮らせる世の中であってほしいです。

※雪しか…冷蔵庫が普及する以前、積み上げた雪をわらで覆って保存したもの。「雪しか」は雪氷を売っていた「雪しか屋」の屋号に由来します